

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103453		
法人名	夕風会		
事業所名	グループホーム 夕なぎの家		
所在地	岡山市東区宿毛745-3		
自己評価作成日	平成31年2月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成31年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人夕風会の広い敷地内に、特別養護老人ホーム、デイケアセンター、ヘルパーステーション、ケアハウス、老人保健施設、道を隔てて宿毛診療所があり、総合的なケアが受けられる。ケアハウスの4階にある事でとても眺めが良く、小高い丘には桃畑や桜並木、眼下に広がる田園風景と見ていて飽きない。居室の南は屋上庭園になっており、畑やプランターで季節の野菜や花を育てている。開放的な明るいホーム内で、一人ひとりの思いに寄り添いながら、のんびりゆったり一緒に楽しくをモットーに支援させて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ケアハウス棟の四階にあり、リビングには明るい日差しが入り込み、そこから続く広いベランダで季節の野菜の栽培や、花、ミカン狩りまで楽しめます。母体は永年この地域の福祉を担って来ており、宿毛診療所との医療連携は入居者、家族の安心に繋がっています。夕風会の夏祭りは地域の方が大勢訪れるイベントとして定着しており、法人全体と共に事業所が地域の一員として日常的な交流も図られています。スキルアップや資格取得への援助など職員の就業環境に努めており、入居者支援の質の向上に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 337	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に沿い、職員会議などで共有し、実践に繋げている。	毎年法人の事業計画(ISO取得)を出し、それに 応じた事業所の計画、そのための具体的 な支援内容、提供機関を定め共有と実践に 取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	夕凧会の夏祭りやふれあい喫茶への参加、 地域の施設見学、近所の友人の来所など の交流がある。	200～300人もの方が訪れるほど盛大な夕凧 会の夏祭りや毎週行われているふれあい喫 茶、コーラスや踊りのボランティアなど、入居 者や地域の方々の楽しみ、交流の場となっ ています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	岡山東区地域包括支援センター、地域連携 室、居宅と常に連携を取り、地域の情報に 耳を傾け事業所としての役割を実践してい る。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	運営推進会議で得た情報や助言を、職員会 議に取り入れ話し合い、サービスに繋げる ように努力している。	入居者、家族、職員、地域住民、市の職員等 たくさんの参加者で会議を開催しています。 事業所の報告や地域との情報交換を行ない サービス向上に活かしています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所 の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝 えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問や不確かな判断はせず、市の担当者 に聞いたり、岡山東区地域包括支援セン ターから新しい情報を得て、協力関係が築 けている。	必要時には市の担当部署まで直接出向き、 相談したり、助言を受けたりと日頃より連携を 図り協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケ アに取り組んでいる	毎月の事故防止委員会、隔月の身体拘束 防止委員会に出席し、全職員周知徹底を 図っているが、玄関はシステム上、電子錠 になっている。	定期的な勉強会やその時々に応じて話し合 い、身体拘束をしない支援に向けて職員全員 で取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を 払い、防止に努めている	コンプライアンスや権利擁護について、施設 長より学ぶ機会がある。又、メディアで取り 上げられている事件など、職員間で話し合っ ている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人制度を活用されていた入居者がおられたが、現在は学ぶ機会を選んでいる状態。いつでも実践できるよう勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分時間をかけ理解、納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や手紙、電話などで現状をお伝えし、意見要望などお聞きしている。あれば真摯に対応し、サービスに活かす様に努めている。	面会に来られる家族も多く意見や要望を伺えるようにより良い関係作りに努めています。入居者の日々の希望には可能な限り即時対応できるよう努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	良い意見、改善案などあれば、職員会議で提案したり、急ぎや重要であれば当日の職員で臨機応変に対応している。	施設長もよく事業所を訪れ、職員と個別に話をする機会を設けています。必要なことや、可能なことはできるだけ早く解決し、職員会議で周知する体制を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生、キャリアパスの制度が充実している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人事考課制度や、資格取得の講習、報奨金など職員を育てるシステムがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の交流は現在は無く、今後持てるよう企画していく。外部研修を通じて情報交換はある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や性格、趣味など情報収集を行い、傾聴共感し、信頼して頂けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時、ケアマネージャーと共に、家族の不安や困りごとをお聞きし、真摯に対応することで、信頼が得られる様努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族にとって今一番最優先の支援を見極め、多職種と連携を取り、サービスが行える様努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような雰囲気の中で、協力し助け合える関係づくりが出来る様に努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ほとんどの入居者は、家族の協力で行事参加や外出や食事に出掛けたり、いろいろな形で共に支えていく関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所やケアハウスから友人知人の訪問がある。ケアセンターに姉を訪ねたり、地区の役員さんの来所など、馴染みの関係は続いている。	入居者は近隣の方が多く、近所の方やケアハウスから知り合いや親族が来られたり、会いに行ったりといった交流を通じて、馴染みの関係が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の準備や洗濯物たたみ、創作活動、菜園活動、レクリエーションなどを通じて、一人ひとりが関わり合い支え合えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設内の移所先に、面会に行ったり、助言を行なう場合がある。家族とは、今でも地区内でお会いし話をする。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の希望や思いに寄り添い、カンファレンスや職員会議で検討し、支援に繋げている。	入居前からの様子や状態を情報提供書で確認するとともに、日々の様子を日誌に記録して毎日の申し送りで職員全員が周知徹底しています。それらを基に一人ひとりの思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴や生活環境を把握し、これまでの経過と大きく違わないように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態にあった暮らし方や、残存機能を生かした暮らし方の支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために、家族や主治医、本人と話し合いを重ね、介護計画を作成している。	担当者を中心として職員全員が意見を出し合い、医療情報を取り入れ、入居者本人や、家族とも話をしながら、現状に即した介護計画を作成するよう努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援の中で、わずかな気づきも職員間で共有し、適切な支援が提供されるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の多様なニーズに対し、多職種との連携により、柔軟に丁寧に対応出来る様努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や外出など地域資源を活用し、気分転換を図っている。地域のボランティア、実習生とのふれあいもある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、主治医、事業所の良い関係づくりが出来ている。これからも連絡を密に取り、適切な医療が受けられるよう努力していく。	従来のかかりつけの医療機関に加えて、昨年より訪問歯科とも連携しています。必要時に適切な医療が受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同棟の看護師による感染症予防の指導や助言、急変時の対応などで協力体制が出来ている。適切な受診に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院による安心できる治療や、早期に退院が出来る様情報交換し、良い関係づくりが出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の希望により、家族や職員、主治医、栄養士間で話し合いを重ね、看取りに近い所まで支援させて頂いている。	入居者本人と家族の意向を聞きながら、事業所で出来ることを話し合い、可能な限り(ギリギリまで)の支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急研修を受けたり、主治医の助言や指導を常に心にとめて、危機管理意識が徹底するよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練と3月11日頃に夕風会全棟で災害避難訓練を行っている。	災害時にはすぐに消防署より救助(はしご車が出動)に来てもらえるような協力体制が築かれています。また自家発電や備蓄もあり、災害時の対策を講じています。	津波や地震、火事といった様々な災害に対して安全に避難できるように、今後も地域や消防署等と協力体制を継続されることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	カーテンだったトイレの仕切りを、アコーディオンカーテンに変えた。一人ひとりの人格を尊重した言動が行えるよう努力している。	入居者の選択を尊重し一人ひとりに寄り添った支援を行えるように努めています。また、難しい場合には、代替えを提案するなどして対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け、スキンシップ、表情から、本人の希望を読み取り、拒否を含めての自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容、爪切り、髭剃り等整容や、服選びなどその人らしさがでる様支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入歯の調整、誤嚥体操を行い、菜園で収穫した野菜を使う、盛り付けの手伝いなど食事が楽しみになる様な支援に努めている。	取り分けや下膳などできることを一緒に行い食事支援をしています。また、菜園で収穫した野菜も取り入れて楽しんでいます。気候の良い時期にはベランダで食事をするこもあるようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態を考慮し、主治医や栄養士の助言を取り入れながら支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年度4月より、訪問歯科の受診を受けたり、指導に沿って行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは2名、夜間のみ。日勤帯は個人のペースでトイレにて排泄を行っている。	日中はリハビリパンツや布パンツを使用し、それぞれのタイミングに合わせ様子を見ながら、トイレでの排泄介助等で自立に向けた支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の物をおやつに取り入れる、運動や下剤の服用、主治医に相談などで、早めに対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否者もおられるが、声掛けの工夫やタイミングをずらす、散歩の後にするなど柔軟な対応に努めている。	広い浴室で、大きな窓から春には梅の花や山桜などを眺めながら入浴を楽しむことができます。また、脱衣場、浴室にもパネルヒーターが設置されており室温への配慮がみられます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自宅で使っていた寝具を使う、軽い運動、眠前薬、安心の声掛けなど個人に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	適宜、薬の見直しを主治医や家族と共に行い、本人にも、質問があれば説明を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動や個人外出、友人知人の面会、季節の行事など喜びが感じられる様な支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	駐車場周りの散歩や受診、家族との外出、個人外出、皆で地域に出かける等している。	棟内で行われるふれあい喫茶や、ベランダ、敷地内での外気浴や散歩等又、買い物や地域のふれあいセンターへ出かけたり、初詣や花見など季節の外出支援も行なわれています。	家族や地域の方との協力体制を築かれ、入居者の体調に配慮しながら、それぞれの希望に沿った外出支援に繋がられることを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1人お金を所持しておられ、要望があれば一緒に買い物に行ったり、職員が買っている。他の入居者はお小遣いとして、事務所で預かっているが、職員と買い物にも行ける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の親類からの手紙のやり取りがある。電話も掛けたり受けたり自由に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	4階なので明るく開放感がある。共有の空間には、花や入居者の作品、写真が飾られている。サンルームで日光浴が出来る。ベランダの花や野菜が見え、鳥も来る。	リビングは明るく田園風景が見渡せます。季節の飾りや生花が飾られ、ゆったりとした落ち着いた雰囲気の共用空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの好みの場所や席があり、気の合う入居者同士ゆったり過ごされている。居室が好きな方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具やテレビ、仏壇などを置いたり、家族の写真を飾り、本人が居心地良く過ごせる様工夫している。	思い入れのあるものを持ち込み、居心地よく過ごせる様、配置したり飾り付けをしてその人らしい居室作りをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー、手すり、ベッドサイドの工夫など安全に、出来るだけ自立した生活が送れる様支援している。		